

覆ったままで法面状態の確認可能 採光でき種子吹付け後の養生に最適

暴風雨などの厳しい自然条件、地盤条件への対応が求められる法面の養生現場では従来、ブルーシートなどが用いられているが、シートで覆われた中の様子が確認できないという課題があった。そこで那覇鋼材株式会社では「エースシート(透明大型万能シート)以下「エースシート」と称する)を導入し、降雨による浸食や土砂の流出、崩れの状況を可視化。このシートは透明なため、覆ったままの状態でも土砂流出や濁水の状況が一目で確認でき、危険性を迅速に把握することができる。また、良好な採光性があるため、種子吹付け後の発芽性が向上するのも特徴だ。

素材はポリオレフィン系樹脂、厚さ0.13mmで軽量かつ丈夫。サイズは5m×5m、5m×10mを用意。四方折り返し補強、ハトメ穴付加工があり施工が簡単で、リサイクルも可能なので環境にも優しい。特に道路や河川などの法面や傾斜地の崩落対策、裸地の養生、種子吹付け後の降雨養生、現場での材料・資材養生に最適。製造は建設資材総合メーカーの岡部株式会社(東京都墨田区)。

実証試験で効果確認

「エースシート」の実証試験では、粘性土で一部軟弱力所がある地山を掘削し、橋脚のフーチング部を施工している法面の養生で実際にシートを用いて効果が確認された。比較のためブルーシートと併用して設置し、紫外線劣化の経過観察が行われた。3カ月後、ブルーシートは紫外線劣化が見られたが、エースシートには特に変化がなく、中の状態がそのまま確認でき、高い透明性を保っていたという。

また、実際に転張する際には、エースシートには約1m間隔でハトメ穴があるため、専用ピンや止め金具を用いて打ち込みすることで簡易に設置でき、この場合は従来のような小型土のうが必要ない。止め金具にさらにPPロープを結ぶことで、風によるめくれ対策の補強も図れる。

このように、中の状態が一目で確認できるため、特に条件が厳しい土砂災害警戒区域などでは、工事に伴う地滑り防止対策、安全な作業環境の確保に「エースシート」が効果を発揮する。

「エースシート」設置の注意点は以下の通り。

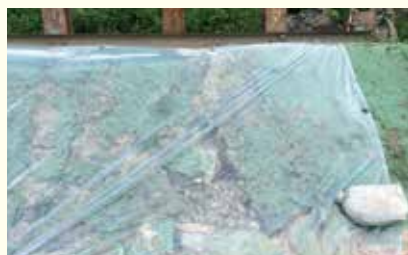
- ①シートには表と裏があるので、印字文字が正しく読める側で使用する。
- ②突起物などに、シートが過度に接触した場合には、破損する恐れがある。(破損した箇所は専用テープにて補修可能)
- ③高温時にシートどうしが融着する恐れがある。
- ④アルミなどの熱伝導率の高いものと長時間接触した場合、蓄熱によりシートが劣化する可能性がある。



どのような形状の法面、斜面でも簡単に施工できる



透明なシートなので、中の植物の発芽状況が確認しやすい



覆ったままでも降雨時の土砂流出や濁水の状況が目視でき、危険性を迅速に把握できる



「エースシート」と、ブルーシートを併用して法面に設置した状況。中央の透明な部分では中の様子が一目でわかる



土の状態が乾燥しているか湿っているか確認できる



現場の資材の養生にも最適(左)
覆ったままでも中の資材が確認できる(右)



盛土の一時的な覆いとしても用いることができる

お問い合わせ先 **DATA**

那覇鋼材株式会社

〒901-0242 沖縄県豊見城市高安593-1
TEL:098-850-7171 FAX:098-852-2121
URL:<http://www.nahakouzai.com/>

備考:営業種目は鉄筋加工販売、シルバー鉄筋、仮設総合リース、総合金物販売、LED照明販売。